

## 県立高等学校入学者選抜の改善方針案作成の経緯

### 1 現行の入学者選抜

千葉県では、平成23年度入学者選抜から、「特色ある入学者選抜」の理念を継承した「前期選抜」と、「学力検査等による入学者選抜」を継承した「後期選抜」の2回の受検機会を設け、入学者選抜を行っています。

#### (1) 前期選抜（平成30年度入学者選抜は、2月13、14日に実施）

学習の成果に加え、生徒の多様な能力・適性、意欲、努力の成果、活動経験等の優れた面を多元的に評価しています。

第1日に5教科（国語・数学・英語・理科・社会）の学力検査を、第2日には各高等学校において、面接、集団討論、自己表現、作文、小論文、適性検査、学校独自問題による検査及びその他の検査のうちからいずれか一つ以上の検査を行っています。

#### (2) 後期選抜（平成30年度入学者選抜は、3月1日に実施）

5教科（国語・数学・英語・理科・社会）の学力検査及び各高等学校が必要に応じて面接等の検査を行っています。

### 2 現行の入学者選抜の現状と課題

県教育委員会では、入学者選抜の改善について、これまで大学関係者、企業関係者、教職員を含む教育関係者や県民の方々を委員とする千葉県公立高等学校入学者選抜方法等改善協議会等で議論を重ねてきました。現行の入学者選抜制度については、これまで7回選抜を実施してきた中で次のような現状と課題が指摘されました。

(1) 前期選抜では、定員設定が全体の約6割となっていることから受検生の4割以上が不合格を経験しなければならない。不合格になった受検生のうち、その約6割が、後期選抜で同じ学校・学科を受検している。

(2) 学習の成果に加え生徒の優れた面を多元的に評価する前期選抜と、主に生徒の学習の成果を評価する後期選抜は、異なる趣旨で実施しているが、いずれも学力検査を課していることから、選抜の違いがわかりにくくなっている。

(3) 2回の選抜があることにより受検期間が長期化し、中学校・高等学校ともに授業確保が難しくなっている。

### 3 改善方針案の概要

現行の入学者選抜の現状を改善し課題の解消を図るために、本年度、協議会に設置した高校・中学校の入試実務担当者からなる専門部会から、現在、前期・後期の2回実施している選抜を1回にまとめて実施するという改善試案が提示されました。この改善試案をもとに協議会において協議をし、その意見等を踏まえ、県教育委員会として、別紙のとおり改善方針案をとりまとめました。概要は次のとおりです。

(1) 現行の入学者選抜の理念を継承し、学習の成果に加え、中学校での取組や活動経験等、生徒の優れた面を多元的に評価できる選抜とし、学力検査と各学校で定める検査を実施する。

(2) これまでの受検動向を踏まえるとともに、新学習指導要領への対応も含めた、中学校、高等学校における授業時間を確保するため、1回の入学者選抜とし実施時期を遅らせる。

(3) 受検生の負担を軽減するため、学力検査を2日に分けて実施する。

(4) インフルエンザ罹患による急な発熱等、やむを得ない理由により本検査を受検できなかった者に対し、受検機会を保障するため追検査を設ける。

なお、これらを柱として、その他の実施にあたっての課題についても引き続き検討してまいります。

### 4 実施時期

入学者選抜制度の変更に伴う、受検生への周知期間及び中学校・高等学校の準備期間を考慮して、平成32年度に実施する平成33年度入学者選抜以降から実施

## 県立高等学校入学者選抜の改善方針案に関する意見募集結果

※いただいた御意見について、趣旨を損なわない範囲で要約し、取りまとめさせていただきます。

また、同内容の意見についてはまとめさせていただきます。

※複数の理由から意見が述べられている場合は、意見の概要を分けて掲載しています。

意見の概要(趣旨)		県の考え方
<b>(1)改善の背景及び理念について</b>		
1	<p>現行の入学者選抜の現状と課題から考えると、今回の改善方針案は適切なものである。</p>	<p>改善方針案をもとに、実施に向けてさらに検討を進めてまいります。</p>
2	<p>専門学科等では前期選抜で定員の100%にあたる入学許可候補者が発表されている。一方、普通科においては、前期選抜で定員の100%を募集していれば合格できる生徒が、「定員の少なさが故に不合格」になっており生徒・保護者に負担感、差別感及び劣等感を抱かせている。そのことが、生徒の残り少ない中学校生活に少なからず悪影響を生じている現状を御理解いただき、「千葉県公立高等学校入学者選抜の一本化」を推進願いたい。</p>	<p>現行の入学者選抜の現状と課題やいただきました御意見も踏まえ、より良い入学者選抜制度の改善を進めてまいります。</p>
3	<p>一回入試に変更することに賛成である。今までの議論にあるように、中学・高校の先生が入試の準備と採点などに使う労力を減らし、日常の教育に専念していただくのが最大のメリットと思う。</p>	
4	<p>近隣の茨城、埼玉、神奈川は既に一回入試となっているようだが、千葉だから二回入試を続ける理由はないかと思う。</p>	
5	<p>今後、未来の入試制度のメリット・デメリットを公開して意見を集めてほしい。</p>	<p>御意見を参考とさせていただきます、さらに検討を進めてまいります。</p>
6	<p>チャンス一回は生徒にプレッシャーをかけるので、再チャレンジの場を作ってほしい。</p>	
7	<p>文科省の授業時数確保より生徒と教師の信頼関係が大切である。</p>	
8	<p>小中学校の保護者にも学校を通して意見を聞くべき。いま子供を育てている保護者の意見を広く聞くべきである。</p>	<p>現行の入学者選抜の現状と課題やいただきました御意見も踏まえ、より良い入学者選抜制度の改善を進めてまいります。</p>
9	<p>前期で合格している生徒は、後期で受検する生徒に対して気が遣うような場面もある。</p>	
10	<p>現行の入学者選抜では、前期選抜と後期選抜の違いが明確ではないような気がする。単純に、試験を2回受けられるような認識をもってしまいうような気がする。</p>	
11	<p>現行では、2回の選抜があることにより受検期間が長期化し授業確保が難しいとの現状が挙げられており、喫緊の課題である。また、前期選抜と後期選抜の違い(特色)があまり感じられず、その趣旨が薄れてきている。</p>	
12	<p>現行の入学者選抜の理念を継承し「学習の成果に加え、中学校での取組や活動体験等、生徒の優れた面を多元的に評価できる選抜」としつつ、改善方針案の「受検時期を遅らせ1回の入学者選抜(2日間)にすること」や「受検機会を保障するために追検査を設定すること」は大変有意義である。</p>	<p>各高等学校が特色ある学校づくりを進める中、生徒の多様な能力・適性、意欲、努力の成果、活動体験等の優れた面を多角的に評価し、このことにより、中学生が目的意識をもって主体的に進路選択をすることができ、現行の入学者選抜の理念を継承したものであるよう、さらに検討を進めてまいります。</p>
13	<p>前期選抜に継承されていた特色化選抜の理念も引き継がれ、中学校での様々な取組を選抜の評価に取り入れられることができ、各高等学校の特色を示すこともできるので、単に以前の入学者選抜と同じ形に戻すわけではないという点も高く評価する。</p>	
14	<p>ほとんどの生徒の進路先が前期選抜後に内定してしまい、わずかな生徒が後期選抜に臨んでいる。その間、生徒同士の気持ちに隙間ができてしまっているような気がする。高校への入学後はどうなのか。前期選抜で入学した生徒と後期選抜で入学した生徒との間に気持ちの隙間はないのか。</p>	<p>現行の入学者選抜の現状と課題やいただきました御意見も踏まえ、より良い入学者選抜制度の改善を進めてまいります。</p>
15	<p>長く中学校や高等学校の先生方が入学者選抜の一本化を望まれてきた経緯もあり、今回の「県立高等学校入学者選抜の改善方針案」を支持する。</p>	<p>改善方針案をもとに、実施に向けてさらに検討を進めてまいります。</p>
16	<p>中学校の実態として、私立高校の受検日程が早く、かなりが内定する。前期選抜で定員の6割設定となっている。専門学科で「前期で100%合格」という高校が多い。これらの点から、3月上旬の後期選抜を志願する者の割合は大変少なく、3年職員にとっては苦勞が多い。また、後期選抜受験者にとっても集中力を持続させることが難しい状況である。このうち2点が改善されたことは意義があることと考える。</p>	<p>現行の入学者選抜の現状と課題やいただきました御意見も踏まえ、より良い入学者選抜制度の改善を進めてまいります。</p>
17	<p>次期学習指導要領も公示され、中学校や高等学校の現場の取組を考えると、改善方針は望ましいものである。受検の機会が1回になることに対して、家庭の不安を取り除けるような取組や丁寧な説明をお願いしたい。</p>	<p>現行の入学者選抜の現状と課題を踏まえ、より良い入学者選抜制度の改善に向けてさらに検討を進めてまいります。</p>

意見の概要(趣旨)		県の考え方
18	新学習指導要領では学習内容がさらに拡大しており、十分な授業時数が必要となる。日程の一本化で授業時数の確保ができることは大変良い。	改善方針案をもとに、実施に向けてさらに検討を進めてまいります。
19	中学校においては、私立入試が始まる1月中頃から学級では出願、受験のために欠席している者が複数いる。2月に入ると、進学先が決まった者も出る。2月からの前期で合格が決まると、後期を受験する者は更に減ってほんの数人ということもある。そのような中では2月末まで授業を行うことは難しい。	現行の入学選抜の現状と課題やいただきましたさまざまな御意見を踏まえ、より良い入学選抜制度の改善に向けて、さらに検討を進めてまいります。
20	検査時期を繰り下げた本検査を1回とすることで、中学校では新学習指導要領の趣旨に合致した学びのための時間の確保に繋がりが、生徒の学力向上に資することができる。	
21	授業確保という点では、今回の改善は良いと思う。 1日だけの検査となると、進路事務の軽減という点からもよいと思う。	
22	今回の改善方針案では、保護者も生徒も本望も妥当に希望する県立高校を1つしつかりと検討することができる。改善方針案のもと、生徒がしつかりと高等学校選びと準備ができるようになってほしい。	改善方針案をもとに、実施に向けてさらに検討を進めてまいります。
23	本検査が1回となることで、中学生の高等学校選び(公立・私立の選択を含む)における意識改革が期待され、進学した高等学校とのミスマッチが減少し、学ぶ意志や意欲の向上が大きく期待できる。	
24	県立高等学校入学選抜の制度変更を行うと、しばらくはその制度が続くと予想されるので、よく吟味してより良いものにしてほしい。	
25	2回の検査によるメリットを十分に把握し、1回になったことによってその全ての点がなくなってしまうといったことのないよう、「検査内容の見直し」もしていただければと思う。	
26	子どもたちの受験に対する考え方や、前期入試はチャレンジャー受検という感覚の生徒もおり、学習塾がそれぞれをおおっている感が否めない。本来は各自の適性や校風、方針など様々なことを考え、将来のことまで考え進路先を決定するべきであると思うが、点数やいまだに出している偏差値を基準として入学できるかどうかで進路を決定し合格点の高い学校を受験する考え方がある。	現行の入学選抜の現状と課題やいただきましたさまざまな御意見を踏まえ、より良い入学選抜制度の改善に向けて、さらに検討を進めてまいります。
27	一本化することで自分の第一希望を明確にして入学後の生活を充実できると考える。目的意識をしつかり持たせる指導をさせたい。	
28	改善方針案(1)～(4)について、中学校側としては同感であり、前・後期式の2回受験は「チャンスが2度」という考え方はあてはまらないと考える。一本化なら合格する生徒が、前・後期式で前期に不合格になるパターンは無い意味であると考ええる。	
29	2回チャンスがあるおかげで、前期で志望校にチャレンジャー合格できた。もし1回限りになると、私立に行かされたくない親としては、志望校より1つ2つ下の高校を受験せざるを得なくなる。2回受験を一度経験している立場としては、下の子にも同じ条件で臨ませたい。	
30	受検チャンスが2回あることによりこれまで大勢の受験生が救われたと思う。1回限りの入試では願書提出時期に受験はどこかの高校にするのか一家庭で悩み苦しみます。そして受験に失敗したときには本人は勿論、一家中の暗い気持ちには計り知れない。現在の2回選抜試験方式においては次のチャンスを使って希望を達成し前へ進むことができ。再検討の根拠として、「受験期間が長くなく、高校共に日常の授業時間の確保が難しくなくなった」ことが挙げられている。勿論1回限りの入試よりも2回の方が時間も手間もかかると思うが、7年間行われてきたこのすばらしい制度を是非定着させてほしい。この優れた千葉の選抜試験方式を他県にも勧めたい。	現行の入学選抜の現状と課題を踏まえ、より良い入学選抜制度の改善に向けてさらに検討を進めてまいります。
31	経済的に余裕のある家庭の生徒たちは、私立高校の入学先を確保し、公立高校については、自らの希望で最大2回、入学先を選択し、チャレンジャーを受けることができる。また、私立高校へ行く余裕がない家庭でも、1回目には自分のチャレンジャーへ行く余裕がない家庭、確実にとどこかの公立高校へ行かない子どもの場合、チャレンジャーをするこどももできず、堅実な進学先しか選ぶことができない。チャレンジャーをして、それでもダメだったときは納得ができるが、チャレンジャーをすることもできないのは、経済格差が広がり、子どもの貧困の連鎖を教育によって断ち切るべき今の時勢に逆行してはいないか。	
32	改善方針案のとおり試験は1回でいい。現行の前後期選抜は生徒にとつてチャンスが2回あり、前期選抜で挑戦・冒險できる利点があるが、中学3年生にとつて「不合格」を宣告されると本人のショックは周囲の想像を超えるものと予想される。これしかも第一希望の高校から「不合格」を宣告されると本人のショックは周囲の想像を超えるものと予想される。これは実際に高校生と中学生の子供を持つ家庭だからこそ言える意見である。	現行の入学選抜の現状と課題やいただきましたさまざまな御意見を踏まえ、より良い入学選抜制度の改善に向けて、さらに検討を進めてまいります。

意見の概要(趣旨)		県の考え方
(2) 日程について		
33	追検査の試験問題の内容については、本検査の内容とは違うと思うが、あらかじめ期日等が発表されていれば生徒も安心だと思う。	追検査の日程については、実施に向けてさらに検討を進めてまいります。
34	県立高校の入試が1回になることで、生徒は試験前の時間を十分に確保することができ、これまでの選抜方法では、前期出願、前期選抜、後期発表、後期出願、後期選抜、後期発表と予定が過密であった。	現行の入学者選抜の現状と課題を踏まえ、より良い入学者選抜制度の改善に向けてさらに検討を進めてまいります。
35	高校も中学校もこれまで2回入試のために窮屈な日程を強いられて、授業や学校行事が犠牲になっていた。一本化により日程に余裕ができるのはとても良い。	
36	前期・後期選抜の導入時に、県立高校の合格発表日は3月6日近辺に繰下げられ、私立高校の入学許可候補者の確定が遅れ、二次入試日程や、制服採寸や新学期準備に支障があった。	本検査の実施時期等については、現行の前期選抜の時期より遅らせ、2月下旬を考えております。また、結果発表の時期については、3月上旬を考えております。御意見を参考とさせていただきます、実施に向けてさらに検討を進めてまいります。
37	公立高校は入試を一回にした方が良い。時期は、2月3週とし、不合格者の手当をすることができただけの日数も確保してほしい。	
38	私立高校の県立高校との併願合格者入学手続きは、中学校進路指導部会との協議により県立高校の合格発表日の2日後までを締切と定めている。その後二次入試を実施するが、近年は中学校の卒業式が早まり、二次入試の実施日や合格発表日が卒業式当日やその後の日程になることがある。二次入試を経て進路先が決定した上で中学生が卒業式を迎えることが望ましく、そのためには県立高校・私立高校・中学校との間で入試から中学校卒業式、入学予定者登校日の設定など総合的な日程を検討調整の上で、県立高校入試日程を定めたい。	
39	入試は1回。ただし2日間で実施。1日に5教科を実施するのは生徒にとっては大きな負担となる。	
40	5教科の学科試験を2日間に分けて実施することに関して、「受検生の負担解消」の意味は本当にあるのか。逆に受検生にとって負担となるのではないか。	
41	2日間に試験を分ける方が受検生への負担は過大なものとなるように感じる。可否を大きく左右する5教科の学科試験において、それが2日間連続するという気持的な不安は過大なものになってくる。1日目の出来・不出来による2日目への影響で、心にも体にも不安定な状況を誘発する。また、1日目を通常どおりに受検し、2日目に体調不良などの不慮のことで受検できなくなった場合の対応はどうなるのか。今まで5教科の学科試験を1日で行ってきた大きな問題がなかったのに、それを変更することに疑問及び種々の懸念事項が生まれてくる。さらに、受検生だけでなく入試を実施する高校側にとっても入試作業の負担が増加するようになってしまう。	改善の理念や受検生への影響、学力検査と学校で定める検査とのバランス等を踏まえ、御意見を参考とさせていただきます、実施に向けてさらに検討を進めてまいります。
42	現行の前期選抜のように、1日目に5教科の学科試験、2日目に各高校の独自検査を行う方式ではないのか。	
43	特色化入試の流れを踏襲し、独自検査の実施を継続させるのであれば、十分に時間を確保して、各高校においてそれ相応の独自検査を行うべきではないか。独自検査の目的として、学科試験では測れないようなことを検査・検討することも挙げられると思うが、それであるならば尚更、2日目に学科試験なしでしっかりと独自検査を行うのがよいのではないか。また、上位レベル校や倍率が高騰してしまいう高校においては、一括の入試問題では測れないレベルの学力や可否の明確な基準となる学力を測るような独自の学科試験を2日目の独自検査で行うのが適切ではないか。	
(3) 本検査について		
44	5教科の学力検査を2日に分けることにより、特に現行の第1日より受検者の負担が減るので良い。	
45	放送機器を使用する聞き取り検査とリスニングテストを同日に実施できた方が、高等学校の運営上の不安を軽減できるので、国語と英語は同じ日にすべき。	
46	英語リスニングテストは、聞く・話す力育成重視の流れや、各検定試験における配分等を考え、20～25分実施してもよい。しかし、筆記問題も量を維持する必要があるため、大学入試センター試験のように、独立した「英語リスニングテスト」として、別枠で実施してはどうか。ただし、「国語聞き取り検査」については、独立させる必要は、あまり感じない。	学力検査については、第1日、第2日の2日に分けて5教科を実施することを考へております。なお、改善の理念や中学校への影響、第2日の各学校で定める検査とのバランス等、適正なものになるよう、御意見を参考とさせていただきます、実施に向けてさらに検討を進めてまいります。
47	「自己表現」は、部活動実技によるものは認めず、スピーチや集団討論等によるものだけにしようか。スピーチ等であれば共通のテーマを与えられるが、部活動実技は種目ごとに内容がバラバラで、公平性に疑問がある。	
48	「適性検査」は、専門学科に限り、その学科で学ぶための適性をみる検査だけを実施できることにし、「部活動実技」や「面接」によるものは認めないようにしてはどうか。面接は「面接検査」として実施すべきで、検査名称と検査内容が明確に一致するようにした方がよい。	各学校で定める検査等については、いただいた御意見を参考とさせていただきます、実施に向けてさらに検討を進めてまいります。

意見の概要(趣旨)		県の考え方
(4) 追検査について		
49	インフルエンザ罹患の追検査設定ですが、配慮しすぎないか、他の疾病の場合はどうか。	追検査について、いただいた御意見を参考とさせていただきます、さらに検討を進めてまいります。
50	採点業務等との並行実施となるため、追検査は学力検査のみ実施し、各学校で定める検査は実施しないこととしてほしい。	追検査については、受検生への影響等を踏まえ、いただいた御意見を参考とさせていただきます、実施に向けてさらに検討を進めてまいります。
51	追検査については、改善方針案に賛成だが、できる限り本検査実施から結果発表までの日数を現行日程よりも長くしてほしい。	追検査の日程等については、いただいた御意見を参考とさせていただきます、さらに検討を進めてまいります。
52	インフルエンザ等で本検査を受けられなかった受検生にも受検機会を保障する追検査の実施は、子供たちの将来を左右する入学者選抜ということで、十分な配慮がなされている。	追検査の実施については、いただいた御意見を参考とさせていただきます、さらに検討を進めてまいります。
53	インフルエンザ等に感染し試験に欠席した者への追試日程について、各試験場では感染者が別室で受験できるよう配慮していることでもあり、試験当日の欠席はごく少数であることが想定される。このようなごく少数の者のための追試日を、合格発表日の前に設けるとして県全体の入試日程を1～2週間長期化する現在の試案は不合理であり再検討されたい。例えば東京都のように、該当者があつた場合のみ1名の定員枠を残して合格発表し、後日、第二次募集日程と同時に追試を行う追試を行う方法がある。	追検査の実施については、いただいた御意見を参考とさせていただきます、さらに検討を進めてまいります。
54	本検査では2日で実施する内容を、追検査では1日で実施することだが、本当に可能なのか。現行の後期選抜のように、検査時間を各教科40分にする必要がある。	追検査の実施に係る事項については、いただいた御意見については、いただいた御理解がいただけるよう努めてまいります。
55	追検査は、現行の後期選抜と同様に、本検査とは別の問題を用意するのか。その場合、それによって有利・不利が出ないこと、合否の基準に影響は出ないこと、について受検者や保護者、中学校の教員に十分な説明が必要である。	追検査の実施に係る事項については、いただいた御意見を参考とさせていただきます、さらに検討を進めてまいります。
56	追検査が各教科40分で行われた場合、問題数が少なくなると考え受検者の方が受検しやすいのか懸念される。	追検査の実施に係る事項については、いただいた御意見を参考とさせていただきます、さらに検討を進めてまいります。
57	急な発熱・インフルエンザ以外の理由でも追検査を認めるのか、「やむを得ない理由」の基準はどうするのか。	追検査の実施に係る事項については、いただいた御意見を参考とさせていただきます、さらに検討を進めてまいります。
58	1日目を通常どおりに受検し、2日目に体調不良などの不慮のことで受検できなくなった場合の対応はどうか。	追検査の実施に係る事項については、いただいた御意見を参考とさせていただきます、さらに検討を進めてまいります。
59	これまで中学校での受検指導や公立高等学校側の別室受検準備体制が定着していることを踏まえ、安易に運用するべきではなく、真にやむを得ない場合の緊急措置と位置づけるべきである。この点は現行の大学入試センター試験の再試験制度を参考にしているか(実施のタイミングや難易度等)。	追検査の実施に係る事項については、いただいた御意見を参考とさせていただきます、さらに検討を進めてまいります。
60	受験者やその保護者の立場からは、現行では受検の機会が複数あつたが、インフルエンザ罹患時の対応で、どれくらいの期間をあけてくれるのか等々の心配がある。	追検査の実施に係る事項については、いただいた御意見を参考とさせていただきます、さらに検討を進めてまいります。
61	追検査の時期について、本検査の結果を発表する前に実施することだが、インフルエンザに罹患して本検査を受検できなかった生徒の体調がその時期までに回復するかと問われるのではないか。追検査の制度自体は良いと思うので生徒が実力を発揮できるように配慮していただきたい。	追検査の実施に係る事項については、いただいた御意見を参考とさせていただきます、さらに検討を進めてまいります。
62	追試験を各高校で行うと、実質的に2回入試と同じになってしまうので、それを避ける。そのために、様々な工夫をする。例えば、各教育事務所ですることを是非検討されたい。また、何かでまとめて行うなどの工夫もありえる。何かまとめて行う場合は地区ごとに輪番とするなど特定の学校に負担が集中しないように工夫されたい。	追検査の実施に係る事項については、いただいた御意見を参考とさせていただきます、さらに検討を進めてまいります。
(5) 結果発表の時期について		
63	改善方針案のように合格発表までの実施でよい。	結果発表の時期については、今後さらに検討を進めてまいります。

## (6)その他

64	中学校現場の教員の負担の軽減にも取り組んでいただけたとありがたい。	
65	前期選抜発表～後期選抜願までの期間が非常に短く、前期選抜の発表を待たずして後期出願の準備をしなければいけない現状を考えると、受検者やその保護者、また中学校の教員の負担が大きく解消されるので、現行の受検機会を2回から1回にすることは賛成である。	
66	公立高等学校では、選抜業務に伴い、やむなく実施していた授業の切り上げや休業が減少することになり、2月日程の有効活用を含め学力向上や生徒指導上のメリットが大きい。	
67	公立高等学校では、選抜業務に関する担当職員の業務負担軽減が期待され、その分各種業務におけるミスの減少や勤務時間の縮減が期待できる。	
68	検査を1回にすることで、生徒の各教科における授業時数の確保につながり、また、中学校・高等学校職員の負担軽減にもなる。	
69	生徒の負担が大きい。生徒は私立複数校。公立2回受験する者が多い。	
70	高校、中学校の職員の負担が大きい。高校は、2回試験会場事務を行う。中学校は、2回の試験の間、授業は成立しない。	
71	定時制第2次募集を全日制の日程の後に実施する。	
72	定時制高校の二次募集の実施日は、全日制高校より遅く設定すべきである。全日制高校の二次募集に合格しなかった受検生にも、高校入学の機会を保障するためである。経済的に厳しい家庭事情で「公立高校に入学できなければ、高校進学そのものを断念せざるを得ない」という受検生もいる。	
73	全日制高校の二次募集に合格しなかった受検生にも、高校入学の機会を保障するため、定時制高校の二次募集の実施日は、全日制高校より遅く設定すべきである。経済的に厳しい家庭事情で「公立高校に入学できなければ、高校進学そのものを断念せざるを得ない」という受検生もいる。	
74	定時制高校は、1クラスの定員40名のうち、転編入生の受け入れ枠としてあらかじめ確保しておくことを制度化すべきである。	
75	定時制高校の学力検査は、国語・数学・英語の3教科にしぼるべきである。定時制高校の受検生は、中学校卒業見込み者(現役の中学生)ばかりとは限らない。中学校卒業後、社会に出たり、高校を中途退学したりした青年たちにも広く高校教育の門戸を開く。	
76	定時制の教科数は5教科に限定せず、現場要求に応じて柔軟に対応する。	
77	定時制の課程については学力検査を第1日目のみとし、3教科以内(0～3教科)の実施とすようにしてほしい。	
78	定時制の課程においては、定時制で学ぼうとする志願者の意思と事情の確認が重要である。また、定時制の課程は、働きながら学ぶ生徒に加え、中学校等における長期にわたる不登校経験者、日本語を母語としない者、病気・傷害などのある者など、複雑かつ多様な事情がありながら高校で学ぼうとする者の学ぶ場となっている。こうした事情から、5教科の学力検査を課す意味が見出せない。	
79	近隣の都県、全国の都道府県においても、定時制の課程については全日制の課程とは異なった選抜方法をとっているところが多く、学力検査については課さない、あるいは3教科以内とするところもある。千葉県のみなぜ全日制と同じ選抜方法をとるのか大いに疑問である。	
80	本検査の第2日について、定時制の課程では学力検査は行わず面接、作文等の検査等を行うことによつて、受検生一人ひとりの定時制高校で学ぼうとする意思と事情等を十分にみることもできる。	
81	「海外帰国生徒」と「外国人」の特別入学者選抜における入学許可候補者の募集人員を一般選抜の募集人員と区別しその募集人員を入学させることを要望する。	
82	「海外帰国生徒の特別入学者選抜」における「検査の内容」の再検討をすることを要望する。	
83	外国人の特別選抜については、定員枠を明示し、定員枠を満たすこと。	

いただいた御意見を参考に、実施に向けてさらに検討を進めてまいります。

いただいた御意見を参考に、検討させていただきます。

意見の概要(趣旨)		県の考え方
84	成人・外国人・中国等帰国生徒、海外帰国生徒等の特別入学選抜について、今後も継続実施してほしい。	実施に向けてさらに検討を進めてまいります。
85	各特別入学選抜の趣旨に従い、高校進学が広がるよう制度改善の検討を行っていただきたい。	入学選抜制度全般の改善に向けて、さらに検討を進めてまいります。
86	外国人の特別入学選抜の入学許可候補者の予定人員を明示し、選抜にあたっては予定人員を確保していただきたい。予定人員内の志願者数であるにもかかわらず入学許可候補者となることがないよう、実施校を指導していただきたい。	特別入学選抜に係る事項について、いただいた御意見を参考に、今後も引き続き検討させていただきます。また、外国人の特別入学選抜を実施する学校については、公立高等学校入学選抜実施要項に記載のある選抜方法に則り、適切に実施していただくよう周知いたします。
87	外国人の特別入学選抜の趣旨に従い適切に選抜を行うよう実施校を指導してください。「日本語が不十分」等の理由で入学候補者から外すことのないようしてほしい。日本語指導、日本語による学習支援は入学後の高校の役割です。このことを全校で確認するとともに、必要な支援（人的支援含む）を拡充していただきたい。	特別入学選抜に係る事項について、いただいた御意見を参考に、今後も引き続き検討させていただきます。また、外国人の特別入学選抜を実施する学校については、公立高等学校入学選抜実施要項に記載のある選抜方法に則り、適切に実施していただくよう周知いたします。
88	外国人の特別選抜における検査の内容である面接及び作文については、「いずれも英語又は日本語による。」との入学選抜実施要項どおり実施していただきたい。英語による面接及び作文を認めるよう実施校を指導していただきたい。	特別入学選抜に係る事項について、いただいた御意見を参考に、今後も引き続き検討させていただきます。また、外国人の特別入学選抜を実施する学校については、公立高等学校入学選抜実施要項に記載のある選抜方法に則り、適切に実施していただくよう周知いたします。
89	学力検査の問題に日本語かなルビ振りを行っていただきたい。	特別入学選抜に係る事項について、いただいた御意見を参考に、今後も引き続き検討させていただきます。また、外国人の特別入学選抜を実施する学校については、公立高等学校入学選抜実施要項に記載のある選抜方法に則り、適切に実施していただくよう周知いたします。
90	作文については日本語かなルビ振りを行っていただきたい。	特別入学選抜に係る事項について、いただいた御意見を参考に、今後も引き続き検討させていただきます。また、外国人の特別入学選抜を実施する学校については、公立高等学校入学選抜実施要項に記載のある選抜方法に則り、適切に実施していただくよう周知いたします。
91	検査（面接及び作文）以外の各校の志願者向けの案内等についても、日本語かなルビ振りを行っていただきたい。	特別入学選抜に係る事項について、いただいた御意見を参考に、今後も引き続き検討させていただきます。また、外国人の特別入学選抜を実施する学校については、公立高等学校入学選抜実施要項に記載のある選抜方法に則り、適切に実施していただくよう周知いたします。
92	中学校間の調査書点の格差を正す理由に行われてきた95処理については、既に初期の目的を達成しており、近年はかえって中学校間の格差や地域差を浮き彫りにするケースも散見されるため、これを機に廃止を検討すべきである。	特別入学選抜に係る事項について、いただいた御意見を参考に、今後も引き続き検討させていただきます。また、外国人の特別入学選抜を実施する学校については、公立高等学校入学選抜実施要項に記載のある選抜方法に則り、適切に実施していただくよう周知いたします。
93	夜間定時制高校の出願受付・合格発表は、職員の正規の勤務時間内に実施できるよう午後開始にすべきである。現行の午前9時開始では、時間外勤務の発生が避けられない。	特別入学選抜に係る事項について、いただいた御意見を参考に、今後も引き続き検討させていただきます。また、外国人の特別入学選抜を実施する学校については、公立高等学校入学選抜実施要項に記載のある選抜方法に則り、適切に実施していただくよう周知いたします。
94	「本検査」、成人・外国人・中等帰国生徒等の特別入学選抜の入学願書等提出の時間は、夜間定時制については13時からとしてほしい。具体的には、入学願書等提出1日目は13時から20時まで、2日目は13時から20時までとしてほしい。	特別入学選抜に係る事項について、いただいた御意見を参考に、今後も引き続き検討させていただきます。また、外国人の特別入学選抜を実施する学校については、公立高等学校入学選抜実施要項に記載のある選抜方法に則り、適切に実施していただくよう周知いたします。
95	夜間定時制の職員の勤務時間は午後1時前後以降である。また、夜間定時制の教職員は非常に少なく、午前8時から夜間の勤務となると、当日の夜間の授業担当が欠けてしまい、学校運営に支障が出る。勤務時間の割り振りの変更で対応するにしても教員数が少ない中では難しい場合もある。変則的な勤務が続く中、入試担当などの職員は体調を崩す場面も出ている。願書等の受付時間を午後からとする場合は、定時制高校から毎年要望して出されている。近隣県では、定時制の課程の志願者受付の時間は午後からとするところが多い。「教員の働き方改革」が課題となる中、千葉県においても勤務時間の中で行えるよう強く訴えたい。	特別入学選抜に係る事項について、いただいた御意見を参考に、今後も引き続き検討させていただきます。また、外国人の特別入学選抜を実施する学校については、公立高等学校入学選抜実施要項に記載のある選抜方法に則り、適切に実施していただくよう周知いたします。
96	夜間定時制高校の願書受付・合格発表の開始時刻と、職員の所定の勤務時間との整合性を持つようにする。	特別入学選抜に係る事項について、いただいた御意見を参考に、今後も引き続き検討させていただきます。また、外国人の特別入学選抜を実施する学校については、公立高等学校入学選抜実施要項に記載のある選抜方法に則り、適切に実施していただくよう周知いたします。
97	志願者の中には夕刻の勤務時間終了後に願書等の提出時間が取れる者もいる。こうした志願者に配慮する上でも、午後から夜間の時間帯に願書等受付時間を設定することは適切であると考えられる。	特別入学選抜に係る事項について、いただいた御意見を参考に、今後も引き続き検討させていただきます。また、外国人の特別入学選抜を実施する学校については、公立高等学校入学選抜実施要項に記載のある選抜方法に則り、適切に実施していただくよう周知いたします。
98	障害を理由として志願者が不利益を被らないよう、各校を指導していただきたい。	特別入学選抜に係る事項について、いただいた御意見を参考に、今後も引き続き検討させていただきます。また、外国人の特別入学選抜を実施する学校については、公立高等学校入学選抜実施要項に記載のある選抜方法に則り、適切に実施していただくよう周知いたします。
99	障害を理由とした特別配慮はもちろんのこと、高校入試についての合理的配慮をさらに進めていただきたい。検査時間の延長等の申請についても配慮を行っていただきたい。	特別入学選抜に係る事項について、いただいた御意見を参考に、今後も引き続き検討させていただきます。また、外国人の特別入学選抜を実施する学校については、公立高等学校入学選抜実施要項に記載のある選抜方法に則り、適切に実施していただくよう周知いたします。
100	障害のある生徒が高校に入学しやすい制度を検討していただきたい。	特別入学選抜に係る事項について、いただいた御意見を参考に、今後も引き続き検討させていただきます。また、外国人の特別入学選抜を実施する学校については、公立高等学校入学選抜実施要項に記載のある選抜方法に則り、適切に実施していただくよう周知いたします。
101	特別配慮に、日本語を母語としない受験生に対し、漢字にルビを振ることを加える。	特別入学選抜に係る事項について、いただいた御意見を参考に、今後も引き続き検討させていただきます。また、外国人の特別入学選抜を実施する学校については、公立高等学校入学選抜実施要項に記載のある選抜方法に則り、適切に実施していただくよう周知いたします。
102	県立特別支援学校高等部の入学選考の日程を、県立高等学校入学選考と同日程とせず、県立高校入学選考の結果発表後に行うよう検討してください。特別支援学校の生徒の中には高校進学を希望する者もいるが、同日程では高校を志願できない。高校進学は全ての人に開かれているべきである。	特別入学選抜に係る事項について、いただいた御意見を参考に、今後も引き続き検討させていただきます。また、外国人の特別入学選抜を実施する学校については、公立高等学校入学選抜実施要項に記載のある選抜方法に則り、適切に実施していただくよう周知いたします。

意見の概要(趣旨)		県の考え方
103	平成30年度選抜から導入した「数値化」は明らかにわかりやすい基準となったことを踏まえ、学力選抜以外の各校独自の選抜枠について、10%～100%の範囲で各校独自に設定できるようにする。	選抜枠等については、改善の理念や中学校への影響等を踏まえ、ご意見を参考とさせていただきます。実施に向けてさらに検討を進めてまいります。
104	これまで専門高校では「入りたい生徒」の先取りを理由に前期一律100%としたが、その結果、実際には真に専門高校に入学したかったがかなわず、後期選抜でやむなく普通科高校に進学することになった生徒が生まれ、結果的に中位以下の普通科高校の学びの充実が支障が出ている。本検査が一回と改められれば、専門高校だけの優遇措置は意義を失う。真の意味で各学校が特色ある入学選抜を実施できる制度にすべきである。	
105	問題配後後に週休日等を挟むと、セキュリティ上、校舎内には部活動や大学受験指導等の理由があっても高校生や職員は一切入れない。加えて今後天皇誕生日が2月23日に変更されること予想され、さらに入学選抜準備期間として必要な2月の平日が減少する。選抜日程については、東京都立高等学校同様に週休日でも可能となるよう、指導課・教職員課をはじめ関係各課で確実に協議し、必要ならば規則改正する。	選抜日程等については、いただいた御意見を参考とさせていただきます。今後検討を進めてまいります。
106	部活推薦枠を明示して、明朗な入試を行っていただきたい。現状のまま前期・後期を一本化すれば、半数以上の高校の入試は不明朗となる。	御意見を参考とさせていただきます。より一層透明性のある入学選抜の実施に向けて取り組んでまいります。
107	「選抜・評価方法」の改善策を、より「公正・公平・透明性」にするために、「学力検査における解作用紙」と学校独自に行う「自己表現」、「面接」、「作文」等の検査も「学力検査等の結果の口頭開示」の開示対象とすること。さらに、各高等学校はそれらの得点分布をWebページで公開することを要望する。	口頭による開示請求に係る開示については、御意見を参考とさせていただきます。検討を進めてまいります。
108	学力検査の点数を最大限に評価すべきである。面接や実技試験など、余計な思惑が入り込むようなことはするべきでない。また、評価基準を明らかにし透明性のある入試にして行くべきである。	御意見を参考にさせていただきます。より一層透明性のある入学選抜の実施に向けて取り組んでまいります。
109	「外国につながる子どもたち」の入学選抜方法等について、今後これらを本格的に議論されたと推察するが、「外国につながる子どもたち」の問題は学校だけでなく、多くのボランティア・NPO組織等もサポートにかかわっていることから、これらの意見にも積極的に耳を傾けられることを要望する。	御意見を参考とさせていただきます。選抜方法等全般についても、実施に向けてさらに検討を進めてまいります。
110	転入枠(学級数-1の-1に相当)を外枠ではなく、募集定員の枠内で設定する。	御意見を参考にさせていただきます。実施に向けてさらに検討を進めてまいります。
111	第2次募集、定時制の追加募集について、今後も継続実施していただきたい。	
112	入試一本化の実施時期を早める。	入学選抜実施に向けてさらに検討を進めてまいります。
113	一刻も早い入試の一本化をお願いする。前期・後期制は入試機会の複数化というが、その恩恵に与れるのは一定の学力以上の生徒のみである。多くの生徒にとって、不要な挫折感を味わうものになっている。	